

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	(株) チャレンジまなびや つどい		
○保護者評価実施期間	R8年 2月 20日		～ R8年 3月 9日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35	(回答者数) 25
○従業者評価実施期間	R8年 2月 20日		～ R8年 3月 9日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 3月25 日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・スタッフのほとんどが教育、保育、福祉の経験者で、それぞれの職種の知識や技能を生かして利用者とコミュニケーションをとっている。	・スタッフによるパソコン教室、実験教室、おやつ作り教室などを開き、子ども達とのコミュニケーションを適切にとることで、利用者が安心して活動できる場を設けている。	・低学年の子ども達が興味関心を示し、一年を通して取り組めるパソコン教室の活動内容の充実や、放課後の居場所として安心できる場の提供に更に努める。
2	・適切な支援の提供には概ね発達年齢に応じた生活能力を向上させ、社会とのコミュニケーションを十分にとれる総合的なプログラムで個々の子どもの実態に合わせている。	・利用者の特性、状況、発達段階に合わせた教材・教具・遊び等をスタッフミーティングで相談し、療育を進めている。	・個人のを更に高めるよう、特性に応じたプログラムを提供できるようミーティング研修を進める。
3	・地域の人材、社会資源を活用し利用者の生活体験や様々なコミュニケーションの場面を提供できる。	・地域の講師によるパレンアート、パン作り教室、イチゴ狩り、米・野菜作り、地域ふれあい食堂、天理大学とのホースセラピー、山辺の道環境保護団体との共同作業を行う。	・それぞれの地域社会資源の活用を深められるよう地域情報を集約するとともに、大学と連携した運動機能向上プログラムを考える。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・アセスメントについてやプログラム実施に向けた管理者・児童発達管理責任者・指導員・保育士の情報共有が不十分である。	・日々の業務が多忙なためミーティングの時間がとりにくい。	・更に全体のミーティングやスモールサイズのミーティングをとる時間を工夫している。 ・業務分担を見直す。
2	・職員研修が少ない。	・年度初めの年間計画の位置付けが不十分である。	・年度初めに必要な研修内容を探り、定期的に研修を行う。 ・担当者を増やす。
3	・モニタリング以外での保護者との面談の機会が少ない。	・就労されている保護者が多いので面談希望者のみになってしまう。	・最初の契約時に、保護者との面談の取り方を相談する。